

コラム第8回 「未来学園となりゆき」



樹木希林^{きき きりん}さんの著書「一切なりゆき」がベストセラーになっています。希林さんのような力強い人生、芯のある存在感には憧れを感じます。ですが、そこに至るまでの人生経験は壮絶なものがあつたらうと察して余りあるものを感じています。

さて今回のコラムは、そんな希林さんの「なりゆき」という言葉をお借りして、松江未来学園が誕生したなりゆきと、この度の移転についてのなりゆきのお話です。

<島根で起業するまでのなりゆき>

約12年前、私がこのフリースクールの仕事に就くことになったのは、広島でフリースクールを営む先生との出会いによるなりゆきでした。

順を追って経緯をお話しますと、私は高校時代(千葉)・大学時代(名古屋)・その後20代前半(東京)で、「演劇」に力を入れていました。名古屋に住んでいた大学時は、「心理学」を学びながら約40名が在籍する演劇部で部長を務めていました。当時を振り返ると私の未熟さからくる苦い思い出が多いのですが、性格や考え方が違う先輩・後輩との上下関係、深夜まで及ぶ(照明の配置や当て方などの)会議、規律や会計の話し合いなど、社会人としての基礎を学んだ演劇部での3年間でした。

大学を終えてからは東京でのフリーの演劇生活(要はフリーター)を経て、24歳で埼玉県にある学習塾に就職し、丸3年間「教育」の仕事に携わっていました。その後、子どもの頃からの夢であった<田舎暮らし><転勤のない(かつスーツを着ない)仕事に就く><自分の家を持つ><結婚して子どもは2人以上>を実現すべく、島根県雲南市に移住しました。生まれて以降、父の全国転勤により2年おきに京都、兵庫、福岡、鹿児島、東京、千葉など都会地を転々としてきた一人っ子の私のささやかな抵抗でした。

移住してすぐは、島根でどんな仕事ができるのか、何の役に立てるのかを模索するため、林業の講習、住宅や家具づくりの研修、起業家スクールなど、半年の間に様々な体験をさせていただきました。この体験を経て、これまで積み重ねてきた「演劇」「心理学」「教育」を仕事にしようと起業を決断し、そんな折に広島でフリースクールを運営している先生との出会いが重なりました。そして私は松江の地でフリースクールの運営に携わることになりました。このとき生徒として入学してきた1人が、今スタッフとして活躍してくれている矢田亮輔です。

<松江未来学園誕生のなりゆき>

起業から3年が経ち、20代から30代になった私は、松江未来学園(旧称:松江未来塾駅南校)を開校しました。起業以来、お世話になった方々からの後押しがあつての開校でした。船出はたいへん不安定なもので、開校当初、生徒は2名、スタッフは私含め7名、借金700万円(自宅が担保)という無謀な挑戦でした。この時期を乗り越えられたのは、当時の6名のスタッフの献身的な働きのおかげでした。年度が終わる頃には生徒が20名を超え、心理士

が経営するフリースクール・通信制高校サポート校として、少しずつ軌道に乗っていきました。開校以来の9年間で、仕事と並行して専門学校（精神保健福祉学）、大学院修士課程（人間科学）、大学院博士課程（臨床心理学）でトータル8年間、学生として学ばせていただきました。

そして未来学園開校から9年目となった現在ですが、まったく油断なりません。目標達成の道のりがまだ見えないからです。開校した当初、スタッフに向けて「この学校（未来学園）がなくなることを目標にしたいです」と話しました。この言葉は、未来学園を必要とする生徒が1人でもいるうちは続けよう、でも、多くの学校（公教育の場）が生徒1人1人にとって過ごしやすい場所になり、不登校という考え方自体がなくなって未来学園を必要とする人がいなくなることを目指したい。そのための1つのモデルとして未来学園を発展させていきたいとの思いからきたものです。

<移転のなりゆき>

そして今回、移転のお話をいただいたのも、長年のご縁あってのことでした。私は5年ほど前から、未来学園の校舎は賃貸ではなく所有にしたいと考え始めました。こう考えるようになったのには理由があります。

1番の理由は、未来学園の理念「ずっと相談できる場所」を実現するため、生徒や卒業生に変わらぬ「母校」を残したいと考えたからです。賃貸の場合、オーナーの事情や老朽化により、不測の立ち退きや賃貸条件の変更が発生します。実際に未来学園もそうした急な変更で苦慮したことが2度あります。

1度目の変更の時（約7年前）は、やむを得ず移転しました。そして2度目の時（約5年前）はなんとか持ちこたえましたが、大変な費用と労力がかかりました。このときから賃貸で学校運営を続けることの難しさを感じ、様々な物件を見て回るようになりました。これまでは松江駅周辺を中心に、5年間で建物3件、土地2カ所を内見しました。そのうち1件は入札を試みましたが、競合があり成立直前で破断となった経緯もあります。2年前のことでした。

そして今年の9月、開校以来、たびたび校舎の相談をしていた不動産業の社長さんから今回の移転先物件のお話をいただきました。いろいろな思いや考えが頭を巡りました。当然のことながら、場所が変わると通いやすくなる生徒もいれば、通いにくくなる生徒もいるからです。物件自体は、校舎設置の要件である130㎡以上の面積で昭和56年以降の耐震基準を満たしている。外装も内装も手入れがいい。バス停も側にある。公園も近い。ですが学園二丁目。何事もいいことばかりとはいかない中、どう折り合いをつけていけるか悩みどころです。交通の便が大きく変わるご家庭は、保護者会でのご説明の後、改めて面談をさせていただけたらと考えています。

このように様々なご縁が繋がって「なりゆき」を頂いてきた私です。今は40代となり、遠視（もとい老眼）や記憶力の衰えを認めざるを得ない昨今です。下り坂の年齢だからこそ、時代や人のなりゆきに身を任せて、目標達成に向かっていけたら幸いです。

野中浩一 拝

